

愛知登文会ニュース 第26号

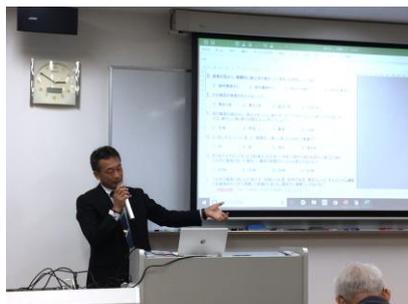
令和2年4月25日号

1 事業実施報告「登録文化財保存活用シンポジウム」(2019年度)

第1回 「建築素材「土」(瓦・左官技術)」

「土」をテーマに、瓦と左官の技術者のお二人に講演いただきました。服部氏からは、瓦屋根の雨漏りについて、プロの調査手順、間違った施工方法などを解説いただきました。松木氏からは、土壁の伝統工法から遊具やワークショップなどによる土への親しみづくりまで幅広い取り組みを紹介いただきました。会場との意見交換の際には、瓦屋の方から製造面に関して補足解説がある場面もあり、活発な意見交換が行われました。

R1.9.26(木)	内容	参加者
14:00~ 17:00	①幸せになれる「瓦屋根」とのお付き合い〜既存屋根のチェックポイントを知ろう〜 講師：服部竜大氏（(有)山三瓦工業代表取締役、瓦屋根診断技士） ②日本壁を未来へと繋ぐ 講師：松木憲司氏（蒼築舎(株)代表取締役、現代の名工） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長）	33名 (講師・事務局含む)



▲服部氏による瓦の解説



▲松木氏による土壁の解説



▲意見交換の様子

第2回 「文化財の活用」

「文化財の活用」をテーマに、文化財行政と不動産信託の分野から講演いただきました。村上氏からは、文化財の活用（観光）を推進する近年の文化財行政の流れについて、これからは周辺の環境や生活文化を含めて地域資産を広く捉えることが大事になるとお話しいただきました。桐生氏からは、文化財の保存活用にあたる資金調達について、行政や篤志家からの補助金・寄付金に頼らない持続力のある手法をご説明いただきました。

R1.12.16(月)	内容	参加者
14:00~ 17:00	①これからの文化財を生かしたまちづくり 講師：村上佳代氏（文化庁 地域文化創生本部事務局 文化財調査官） ②事例 不動産信託による古民家再生・利活用の資金調達 講師：桐生幸之介氏（きりう不動産信託(株)代表取締役） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長）	35名 (講師・事務局含む)



▲村上氏による文化財行政の解説



▲桐生氏による不動産信託の解説



▲意見交換の様子

第3回 「文化財建造物の保存修理と維持管理」

「文化財の保存・維持」をテーマに、建築の専門家お二人に講演いただきました。石川氏からは、明治村が行う“移築保存”について、現在進行中の宇治山田郵便局舎（重要文化財）の保存修理工事を例に解説していただきました。魚津氏からは、文化財に関わる施工事例や、修理に係る調査の流れをご紹介いただくとともに、現代の建築業界における伝統系大工（宮大工）の位置付けや専門性についてお話いただきました。

R2.2.21(金)	内容	参加者
14:00～ 17:00	①保存修理と維持管理―博物館明治村において 講師：石川 新太郎氏（博物館明治村 建築専門課長 文化財建造物保存修理主任技術者） ②文化財修理のポイント 講師：魚津忠弘氏（(株)魚津社寺工務店 代表取締役社長） ③意見交換 コーディネーター：天野啓介（愛知登文会副会長）	40名 (講師・事務局含む)



▲石川氏による明治村の活動紹介



▲魚津氏による文化財修理の解説



▲意見交換の様子

2 愛知登文会便り

国登録有形文化財全国所有者の会（全国登文会）活動報告

愛知登文会会長 小栗宏次

2019年6月に全国登文会が設立され1年が経過しようとしています。2020年6月に大阪で全国フェスタ並びに全国登文会総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。令和元年度は3回の正副理事長会議（理事長：大阪登文会、副理事長：京都登文会、愛知登文会、東京登文会）が開催されました。2019年11月8日、常滑のINAXライブミュージアムにて愛知登文会の後藤理事のお世話により第1回会議が開催されました。2020年2月4日、京都登文会の塚本会長のお世話で京都大山崎山荘生々居にて第2回会議が開催されました。そして2020年4月4日、東京登文会渡辺事務局長のお世話にて東京日本橋で第3回会議を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス対策としてZoomによるビデオ会議にて実施しました。

正副理事長会議の議題は以下のような内容です。①全国登文会の会費について、②全国フェスタの準備、③所有者の会設立支援について、④助成金等への応募について、⑤ロゴマークの作成について、⑥HPの開設について、⑦総会準備、⑧その他。③の所有者の会の設立支援では、京都登文会塚本会長の支援のもと、滋賀県に所有者の会が設立する事となりました。愛知登文会も、近隣の岐阜県及び静岡県に所有者の会ができるよう支援して行きたいと思っております。④の助成金への応募については、昨年度、大成建設自然・歴史環境基金への応募を行いましたが残念ながら不採択でした。今年度は、4月にサントリー財団への申請を行いました。⑥のHPの開設は、6月に予定していた総会で公開する予定でしたが、HPだけでも公開できるように準備を進めています。

新型コロナウイルス拡散が早く終結し、全国フェスタ開催ができる日が一日でも早く来ることを祈念しています。



常滑INAXライブミュージアムでの正副理事長会議の様子 ▶



3 事業実施報告「登録有形文化財魅力紹介冊子」(2019年度)

昨年度からの継続事業として、様々な種類の登録有形文化財の魅力を多くの方に知ってもらうために愛知県内の登録有形文化財を紹介する冊子を作成しました。

「あいちのたてもの まなびや編」

「ものづくり編」に続く第2弾は、「まなびや編」として、学校をテーマに13件+1群の文化財を取り上げました。「小・中学校」「高校」「大学」「門柱」の4つに分けて紹介しています。各学校のご協力のもと、建築史家の村瀬氏に全面協力いただき、学校建築の変遷から各校の特徴までをわかりやすくまとめました。今回は、中でも特色のある学校や地域について深掘した特集ページも充実しています。ぜひ、ご自身の思い出と重ねながら、明治期より今に続く学び舎での営みに思いを馳せてみてください。

この冊子は会員の皆様に配布したほか、愛知、岐阜、三重、静岡、東京、大阪、京都の各図書館に寄贈させていただいています。ぜひお手にとってご覧ください。また、内容は当会ホームページでも公開中です。

令和2年度は、「宗教施設」をテーマに、神社、寺院、教会などを取り上げる予定です。次回もご期待ください。



▲あいちのたてもの まなびや編



木造建物の健康診断に向けて

昨年の夏、建物の健康診断についてセミナーにご登壇頂いた名古屋大学の山崎真理子さんにご協力頂き木造建物の健康診断を実施しました。今回のコラムでは本題に入る前に、登録文化財に限らず木造建物の抱える問題についてお話ししようと思います。

住宅など木造建物の技術は日進月歩で、日々新しい技術が導入されて目まぐるしく変化しています。しかし、実際にそれらを設計者の立場で見ると、この最新の技術で建てられた住宅がこれから100年の風雪に耐えうるかといえば難しいと考えています。

例えば柱と梁を固定する金物ですが、木材と金属の相性は良いとはいえ、金属の周りは結露が発生しやすいため一番劣化しやすい部分になります。金物で補強することが主流の現在の住宅づくりは、強度が必要な部分から劣化が始まります。

そうした部分を保護する気密シートも石油製品なので最初は良くてもいずれは劣化するでしょうから、柱や梁が壁の中に隠されて見えない現代の家は劣化が進行していても気付かせません。長い目で見ると、昔ながらの作り方が一番長持ちしていることに気づいている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

次に多くの方が専門家だと思っている大工さんや建築士も、木材の加工を工場で行う分業化が進んだことで、多くの大工さんは組み立て専門で木材の知識は持ち合わせていません。同じように建築士も、これまで国の施策で鉄筋コンクリ

愛知登文会理事 寛清澄

ートや鉄骨で都市化を進めるよう建築教育を受けてきたため、木について知識のある建築士は少ないのが現状で、木について知らない専門家が木造建物に携わっています。これが木造建物の抱えている大きな問題です。

また、木材は見た目からはその強度を判断することが出来ません。これはどんな達人が見ても外観から内部の弱点は見えないからです。

私も前記した建築教育を受けた一人で、登録文化財になった自宅をどのように維持管理していくかを考えた時、いかに建物の状態を「見える」ように出来るかは大きなテーマでした。実はこの木造建物の健康診断は、私たち木造建物の所有者にとって今後の維持管理や修繕箇所の予測、改修時にガイドラインとして活用できる「コンディションが見える化」できる方法なのです。



▲名古屋大学による調査

4 県外視察報告—愛知登文会独自事業（2019年度）

未来へ届け！虹色の文化財たち

あいちヘリテージマネージャー 山田美紀子

令和元年12月3日、愛知登文会会員と関係者の合計15名は滋賀県の高島市と長浜市へ視察に向かった。行きの車中にて見事な七色の虹に歓迎され、参加者は気分上々。その素晴らしい虹をくぐり抜けて私たちは滋賀県入りした。

視察1. きのもと交流館 旧滋賀銀行木之本支店を改築した施設。地域の人々や木之本を訪れる人達との交流を図り、まちの活性化の為に情報発信基地として活躍する。建物見学後、町を散策。

視察2. 高島びれっじ 高島商工会の石田氏より「高島びれっじ」によるまちの再生について説明をお聞きした後、現地を視察。勝野地区の一角で油商を営んでいた築150年の旧商家を商工会の有志が手づくりで改修。歴史に思いを馳せながら散策したり、食事や体験、買い物を楽しむことができる。

視察3. ヴォーリス通り 今津ヴォーリス資料館（大正12（1923）年築）、日本基督教団今津教会会堂（昭和9（1934）年築）、旧今津郵便局（昭和9（1934）年築）という三つのヴォーリス建築が立ち並ぶストリート。各建物の内部を見学し、活用されている方々の話を伺う。

視察4. 長浜旧開智学校

滋賀県最初の小学校。明治7（1874）年に校舎を新築し、昭和12（1937）年に現在地へ移築。平成12（2000）年に改修し、現在は地元の会議室や展示場利用。木造3階建、八角塔屋付の擬洋風建築。

今回の研修は移動中までも虹に見守られていた。虹が様々な色から成り立つように、歴史的建造物の保存活用法にも個々の色がありそれらが集まって大きな虹の架け橋が出来上がるのではと思った。様々な団体と交流・協力し、文化財が活躍する未来への懸け橋を皆でつくっていきけるようにと祈る。



▲高島びれっじ2号館前にて記念撮影



▲長浜旧開智学校



県内の登録文化財の活用事例紹介

vol.7

尾関家住宅主屋、土蔵（犬山市）

尾関立志

当家は愛知県犬山市の丸山地区にある犬山焼の窯元です、天保十三年の大火の後に現在の場所へ建てられたと伝えられています。

登録文化財に登録されたのは平成十一年と割りとは初期であったのですが、当時は祖父・祖母の生活の場でしたので、登録文化財としての活用は平成二十四年頃だったと思います。

平成二十五年に雨漏りのため傷んでいた六畳間と仏間奥の物置などの応急修理をおこないました、その時に物置から見つけた文書の中に陶器窯、瓦窯の焼成許可鑑札などの、窯元としての尾関家の歴史を物語る資料がありましたので、見学会などの折に公開しております。尤も当家は基本年中無休ですので、資料などはご希望があればいつでもご覧いただけます。

絵付けの体験も主屋で行っていますが、今後は「TAB | いますC A」などの体験を募集するサイトに登録して、より広く周知していただくことを考えています。体験を行っている8畳間は奥の座敷と合わせてギャラリーとして使用できる様に、スポットライトを設置しています。五回程展示に使用していただきました、今のところ主屋の活用

はこの様なところです。

次に土蔵についてですが、昨年の台風で軒の一部とその周りの漆喰が剥がれ落ちてしまったのと、それ以前から一階の床板がかなり傷んでいましたので修理を行うことになっています。ですので活用についてはそれらが一段落してからと思っていますが、色々柔軟に対応できればと思っています。



編集後記

令和元年度は、「あいちのたてもの博覧会」の開催、「あいたてカード」「あいちのたてもの」の発行等、「愛知」を推し出して取り組んできました。また、前年度のシンポジウムをきっかけとして建物診断を実施したり、県外視察や全国登文会の活動で交流の輪を広げたり、盛りだくさんの一年となりました。

令和2年度も文化庁より補助金をいただけることになり、精力的に活動していきたい考えですが、流行中の新型コロナウイルスの発生状況に合わせ、柔軟に対応してまいります。

令和2年度総会は、規模を縮小して開催予定です。ご理解をよろしくお願いいたします。

愛知登文会ニュース 第26号

発行日：令和2年4月25日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒461-0005 名古屋市東区東桜二丁目9-34 成田ビル高岳3階
名古屋テレビ塔株式会社内

TEL 052-325-2951 FAX 052-325-2952

E-mail info@aichi-tobunkai.org

HP http://www.aichi-tobunkai.org

Facebook @aichi.tobunkai

Twitter @aichitobunkai

Instagram aichitobunkai